



平成三十年六月二十日

皇紀2678年
(西暦2018年)
第168号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

なかなか気温が落ちて着きませんね

暑くなったり涼しくなったり

これを書いているのは六月二十日です。このところ気温がなかなか安定しません。最高気温・最低気温とも変動が激しい傾向になっています。ちよつと暑いなど思ったら、急に涼しくなったり。ときどきは肌寒い朝になったり。気温の変化がこれほどめまぐるしいと、体調管理がとても難しくなります。

この梅雨のじめじめした季節は、気分的にも下降気味になることも。そんなときは免疫力も低下する場合もありますので、できるだけストレスをため込まないように工夫をし、気分よく過ごせるよう心がけましょう。



神社うんちく帖

さて今回も『古事記』に基づいてのお話をしたいと思います。

◆美斗能麻具波比（みとのまぐわひ）

さて、伊耶那岐神・伊耶那美神の二柱による鳥々の生成、つまり「國生み」はいよいよ本格的に始まります。（今号から「伊耶那岐」に統一）お互いの体のさまを確認し合ったのち、二人は「國生みなさむ」と思い立ちます。

そして最初に出現させた「天御柱」を左右からぐるりと巡って出会い「美斗能麻具波比」、つまり結婚することを約束し、伊耶那美は右から柱をまわり、伊耶那岐は左から回りました。そして、伊耶那美は言います。

「あなにやし、えをとこを」※愛すべき男性よ
続いて伊耶那岐は答えます。

「あなにやし、えをとめを」※愛すべき女性よ
巡りあって伊耶那岐は伊耶那美に言います。
「女人先だち言へるはふさわず」

◆水蛭子（ひるこ）と布斗麻邇（ふとまに）

さて、はじめに生まれた子は「水蛭子」という、形をなさない子どもでした。二人はこの子を葦の船に乗せて流します。次に淡島が生まれますが、こちらも数には入りませんでした。そこで二人は相談し合って天津神のもとへ参り、どうしたらよいかをうかがいました。

天津神は「布斗麻邇」をなして「女の先だち言ひしに困りてふさはず、また還り下りて改め言へ」と二人に告げました。

つまり、「先に女性から声をかけたのがよくなかった。もう一回やり直し」です。

◆ここからちよつと脱線

男女の交合を表す言葉に「まぐわい」があります。今回の伊耶那岐・伊耶那美による國生みの段でも「美斗能麻具波比」という言葉が出てきます。性的なニュアンスが非常に強い言葉ですが、この言葉を漢字で書くとき「目合ひ」となります。

辞書を引くと、

——目を見合わせて愛情を通わせること。目配せ——

とも書いてあります。こういう風に書くと、ちよつと趣のある言葉になるような気がします。

そして、なかなか國生みがうまくいかず、天津神に相談することになりました。天津神は占いをして二人にアドバイスをします。この占いのことを「布斗麻邇（太占）」と言います。さて、占いの結果

「最初に男神である伊耶那岐の方から、相手を褒め称える声をかけねばならない」

ということになりました。

すでに神話の時代から「最初に声をかけて女性をいざなうのは男性の役目」ということになっていたのですね。男性、大変です。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。